

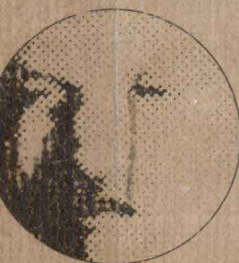
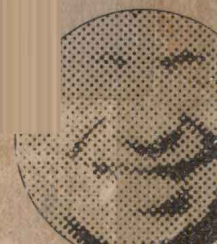
JANUS

ホロシ革命

アーサー・ケストラー

Arthur Koestler

田中三彦・吉岡佳子 訳



ホロン革命

発行 一九八三年三月一日

著者 アーサー・ケストラー

エディトリアル・ディレクション 松岡正剛

編集 十川治江

エディトリアル・デザイン 海野幸裕

印刷 杜陵印刷株式会社

製本 田中製本印刷株式会社

発行者 中上千里夫

発行 工作舎 editorial corporation for human becoming

〒150 東京都渋谷区松濤 2-21-3 phone : 03-465-5251

JANUS

ホロン革命

アーサー・ケストラー

Arthur Koestler

田中三彦＋吉岡佳子 訳

日本語版への序

人間の精神の進化、創造性、病理が、本書の主題である。本書はまた、人類が絶望を超えてとるべき道を、試みに提案するものである。

一九八三年一月、ロンドンにて
アーサー・ケストラー

プロローグ●新しい暦

15

- 1——ポスト・ヒロシマの課題
- 2——借りものの時間のなかの虚構
- 3——ホモ・サピエンスの四つの症状
- 4——ワニとウマとヒトが同居する人間の脳の矛盾
- 5——人間の悲劇を生む過剰な献身
- 6——もつとも恐るべき兵器「言語」
- 7——死の発見と死の拒絶
- 8——人間の創造性と病は動物に還元できない

第一部 システムとは何か

46

第一章●ホロンがつくる開かれたシステム

49

- 1——還元主義は疲れた旅人を救わない

第二章 ● エロスとタナトスを超えて

- 2 — 還元主義とホーリズム（全包括論）を超える第三の方法
 - 3 — 〈ホロン〉が層をなす有機体のヒエラルキー
 - 4 — 一般システム論の登場
 - 5 — 部分と全体の二面の顔をもつホロン
 - 6 — ホロンが構成するホラーキー構造
 - 7 — ホロンはあらゆるシステムに適用できる
 - 8 — 固定された規則と柔軟な戦略
 - 9 — 個体発生のゲームの規則と戦略
 - 10 — 進化の規則と戦略
 - 11 — 意識と心の謎を解く規則と戦略
 - 12 — ヒエラルキー・システムの相補性原理 〈樹状化〉と〈網状化〉
 - 13 — 経験によって強化されるアブストラクティック記憶の貯蔵法
 - 14 — 情緒を反映するスポットライト型記憶
 - 15 — 自意識過剰なムカデの苦境
 - 16 — 存在のホラーキーは両端が開いている
- 1 — ホロンの統合傾向と自己主張傾向
- 2 — 人間ホロンの情緒の二面性
- 3 — 物質界をつらぬく二面性

4 — 自己主張傾向の保守性と統合傾向の未来指向性

5 — フロイトのエロスとタナトス説の限界

6 — ルイス・トマスの共生進化説

第三章 ● イマジネーションと情緒の三次元

1 — 情緒をい როდოる三変数

2 — 純粋な情緒を切りとることはできない

3 — 同情と共感の情緒プロセス

第四章 ● 善意にみちた集団精神の恐怖

1 — 〈真の宗教〉の破壊性

2 — 利他主義が集団のエゴイズムを生むへ悪魔の弁証法

3 — 真理追究のためのおぞましい実験

4 — 人間はたまたま属した集団のために戦争する

5 — 社会的ホロンとしての人間

6 — 集団は情緒を喚起し知性を単純にする

7 — 古い脳と新しい脳

第五章 ● 絶望の彼方に

1 — 救済は生物学研究所から

第二部 創造的精神

178

- 2 — 「大衆ニルヴァーナ」という幻想
- 3 — 問題は理性と和解しない情緒にある
- 4 — 人間の本質を操作する可能性
- 5 — ホモ・マニアカスからホモ・サピエンスへ

第六章 ● ユーモアとウィット

181

- 1 — 創造性の深奥に通じる裏口
- 2 — ぜいたくな反射作用、笑い
- 3 — ユーモアの論理構造
- 4 — 情緒のダイナミクス
- 5 — 思考に見捨てられた情緒の解放
- 6 — ジョークや風刺のゲームの規則
- 7 — 人間をとりまくさまざまな笑い
- 8 — ユーモアを左右する三つの基準
- 9 — 科学・芸術・ユーモアをつなぐスペクトル

第七章 ● 科学における発見術

213

- 1 — 科学的創造性の本質

- 2 — 道化師と芸術家のはざま

第八章 ● 芸術と科学の創造性

- 1 — 笑いと泣きの対照
- 2 — 神秘体験につながる A h : 反応
- 3 — 創造の源はひとつしかない
- 4 — 悲劇作家、コメディアン、医者への創造活動
- 5 — 悲劇と日常性のバイソネーション
- 6 — 無意識は創造性を手引きする
- 7 — 創造的ジャンプのための撤退
- 8 — 科学と芸術の相補性
- 9 — 科学と芸術の進化サイクル

第三部 創造的進化

第九章 ● 崩れゆく砦

- 1 — ネオ・ダーウィニズムの矛盾
- 2 — 自然淘汰と適者生存の堂々めぐり
- 3 — だが進化のルーレットに賭けるか？
- 4 — 行動の進化の謎

265

262

223

第二〇章 ● ラマルク再訪

- 5 — ダーウィンのためらいとメンデルの夜明け
- 6 — サミュエル・バトラーの嘆き
- 7 — 遺伝子の原子論のあやまち
- 8 — 遺伝子のミスプリントを修正するもの

311

第二一章 ● 進化における戦略と目的

- 1 — 生命界の相同現象
- 2 — 有袋類と有胎盤類の驚くべき相似
- 3 — ゲーテの原型論の系譜
- 4 — 進化の目的を設定するのはだれか？
- 5 — 進化を推進する生命の独創力
- 6 — サルの胎児とヒトはなぜ似ているのか？
- 7 — 科学や芸術における幼形進化

331

- 8 — ヒトデからヒトにいたる再生能力
- 9 — エントロピーとシントロピー

第四部 新しい地平

第二章●自由意志とヒエラルキー

- 1 — 人間をロボットに変える習慣のワナ
- 2 — 精神的人間と機械的人間の相補性
- 3 — 「自分」と自分の果てしない鬼ごっこ
- 4 — 自由意志と責任感

369 366

第三章●物質と精神の対話

- 1 — ESPは非科学的か
- 2 — 現代物理学が描く物質のイメージ
- 3 — 量子論のパラドックス
- 4 — 確率的世界像
- 5 — 創造的アナーキーの時代
- 6 — ブラック・ホールと超空間
- 7 — 精神化する物理学と現実化する超心理学
- 8 — テレパシーよりも神秘的なユングの同時性

391

第一章●宇宙的作用につつまれて

- 9 — カメラの連続性の生物学とパウリの非因果的な物理学
- 10 — 因果性を超える宇宙観
- 11 — 無秩序から秩序への流れ
- 12 — ESPのフィルタ装置

445

- 1 — 人間の脳にひそむ潜在能力
- 2 — 崩れゆく合理主義者の幻想
- 3 — 地球愛国主義を超えて
- 4 — 高次のリアリティからの信号

訳者あとがき

465

参考文献

473

著者・訳者紹介

492

★本文脇のアラビア数字は参考文献番号に対応しています。

謝辞

『エンサイクロペディア・ブリタニカ』（一九七四年、第一五版）の編集部から、わたしがそれに書いた「ユーモアとウィット」の解説文を借用する許可をいただいたことを、まず記しておきたい。

また、『マインド・イン・ネーチャー』（副題、「科学と哲学の共通問題」）の編集部ならびにJ・B・コップ・Jr、D・R・グリフィン両氏には、その本に掲載したわたしの論文「自由意志のヒエラルキー的解釈」の引用を許可していただいたことに對し、感謝したい。

さらに、つぎの方々には、その著作からの引用をお許しいただき、厚く御礼を申しあげる。ゴテンブルグ大学ホルガー・ハイデン教授（『精神のコントロール』）、スタンリー・ミルグラム教授（『權威への服従』、『対話』）、ルイス・トマス博士（『細胞から大宇宙へ』）。

ホロン革命

本書はわたしが政治小説を書くのをやめ、筆先を生命の科学、すなわち人間の精神の進化、創造性、そして病理に向けて以来、過去二五年にわたって出版された著作の要約であり、補足である。

こうした要約には、困難がつきまとう。科学論文の最後に、あるいは書物の最後に要約を添える場合は、その内容がまだ読者の心に新鮮な形で残っていると仮定して筆を走らせることもできる。しかし、今回はそういうわけにはいかない。なにしろ、たとえ読んでくれているとしても、何年も前に読者が手にしたような本を、一挙に要約しようというわけだからである。したがってわたしは読者にとってどこまでが当然か確信をもてなかったのだ、ある程度、昔の文章をそのまま反復せざるをえなかった。そのため読者は、わたしが過去の著作からそのまま借用してきた数行の文（ときとして全パラグラフのこともある）を目にしたとき、ことによると「既視感」を催すかもしれない。

わたしが望んでいるのは、過去の著作が合体し、それが唯物主義を拒否し人間の条件に何がしか新しい光を投げかけるひとつの包括的な理論になってくれることである。もしかすると、これはあまりに野心的な印象を与えられかもしれない。そこで『創造活動の理論』の「前書き」からの引用を添えておきたい。

わたしは、ここで提唱している理論の前途に関して、何ら幻想は抱いていない。新しい知識によって、理論の細部に多くの誤りがあることを立証されるのは、ことの必然であろう。わたしが望んでいるのは、それがおぼろげながらも真理の原型を含んでいることがわかってもらえれば、ということである。

フロッグ●新しい暦